



園長のワンポイント ～ こどもの思いを探ること ～



こども家庭庁は、常にこどもの視点になって、こどもの利益を一番に考える「こどもまんなか社会」という取り組みを打ち出しています。そのひとつとして、こどもの思いや考えを大切に、それを表現できるように支援する仕組み（こどもアドボカシー）を進めています。こどもは普段感じていることや思っていることを、自分自身で言葉にすることは難しいものです。その思いや考えを引き出して表すことを支援する専門家（アドボケイト）を置くことも検討されているようです。ところがそのためにはいくつかの問題も出ています。専門家を置くための財源確保はもちろんですが、保護者や事業者など大人の意向に流されずに、こどもにとって最も利益になるような中立の立場を守ることは特に難しいかもしれません。例えば現在でも、就学についてはこどもの思いよりも大人の都合で決められてしまう傾向がありますが、こどもがどこで学びたいのか真の思いを探ることも重要です。さらに、こどもの言葉の発達の問題もあり、それを工夫してうまく引き出すことにも技術的にかなり困難となることもあります。確かにこどもの思いや考えを引き出すためにはこどもの権利、心理や発達の知識を備えているなどある程度のスキルが求められるかもしれません。



しかしながら、まずはこどもにとって日々一番身近に接している家族や支援者が、日頃からこどもの気持ちに寄り添うことが大切ではないでしょうか。こどもがどこで誰と一緒に過ごしたいのか、好きなことや苦手なことが何なのか、頑張ったときにどのように返してあげたら嬉しいか、など普段のこどもたちの様子を丁寧に探ることが重要です。こどもはそうして寄り添ってくれる大人にこそ心を開いていきます。しっかりと信頼関係のできた大人にこそ素直に自分の感情や思いを伝えてくれるのではないのでしょうか。

わくわくオータムフェスタ ～ 地域の方との交流を楽しみに ～



10月25日（土）にふれあいプラザあかし西にて「わくわくオータムフェスタ」というイベントが今年も開催されました。あおぞら園きらきらの職員もイベントに参加し、バラエティショーでは手話コーラス『にじ』を行い、肉まん、アイスクリームなどの出店も行いました。また、1階と3階では園の療育の写真や子どもたちが作成した製作の作品展示も行いました。あおぞら園保護者会からもバザーの出店をしていただきました。

その他にも、バザーや屋台、体験コーナーなどの出店が数多くあり、多くの人々にぎわう一日となりました。この行事を通して、地域の方々と直接関わり合い、楽しさを共有することができ、人々の温かさを感じることができました。また来年も地域の方々とお会いできるのを楽しみにしております。（羽室）



就労見学ツアー ～ 将来の生活をイメージしながら ～



10月28日（火）に、保護者の方3名と、あおぞら園職員4名で、社会福祉法人「明桜会」様の「サポートセンター曙」に就労見学ツアーとして、事業所見学及び、管理者、職業指導員の方々から就労や成人の方々の生活についてお話も伺いました。サポートセンター曙さんは、就労支援B型と就労移行支援を実施されている事業所で、作業に関しては、クッキーづくりや、企業から依頼された様々な作業を職員のサポートの下、皆様、真剣に丁寧に取り組んでおられました。また、就労支援という、仕事に取り組むために必要な練習やサポートについては、「あいさつができるようになること」「困った時に人に聞けるようになること」「仕事をするための体力や生活リズムを整えること」などが大切であることを教えていただきました。また、管理者の方からは「就労支援は、ここでたくさん失敗をして、対応方法や解決方法を習得することや、社会生活のいろいろな経験を積んで、就労という形で社会とつながっていく場所である。」との言葉が印象的でした。

就労というとまだまだ先のことと思いがちですが、このように事業所を実際に見学していただくことで、保護者の皆様の安心に繋がったり、相談支援としても、将来の生活を少しイメージしながら、ご本人やご家族とお話を進めていきたいと考えています。（副主任・小坂田）

三田谷フェスティバル ～ 地域のみなさまへ日々の感謝の気持ちを込めて ～

11月1日（土）に開催されました「三田谷フェスティバル」にスタッフとして参加させていただきました。前年度は悪天候の影響で中止となったため、今回の開催を心待ちにされていた方は多かったのではないのでしょうか。

フェスティバルでは、ステージでの出し物や参加型のスタンプラリーに始まり喫食や物品販売、制作コーナーなど充実したプログラムが準備されていました。参加はどんな方でもOK。三田谷治療教育院の施設ご利用者様をはじめとし、そのご家族、近隣住民の方、地域の福祉関係者など多種多様な方々のご参加がありました。利用者様はご家族やスタッフの方と一緒に楽しんだり、おひとり時間を満喫している方もいらっしゃいました。キッチンカーがきたり、珍しい食べ物が並んだり、いつもとは違った特別感あふれる行事を堪能しておられました。

スタッフとして参加させていただき参加者の方々と触れ合うことで、このような行事を通して福祉のことを知っていただくことの重要性を感じました。三田谷フェスティバルは施設の中や中庭を利用して行っているの、普段利用者様が過ごされている環境を見ていただくことができます。地域の方々は参加して楽しみながらも「こんなところなんだな」「こんなことをしてるんだな」と感じてくださっていたようです。ご利用者様も地域の方々と触れ合うことで、優しさや地域の資源を知ることができていたように思います。

「知る」ということは様々な事項の「スタート」であると思います。何事もまずは知ることから始まるのだと改めて感じたとともに、そのような場に一員として参加できたことを嬉しく思います。自分もまずは「知る」ために様々な場に参加していきたいと思いました。楽しさも学びもあった良い1日であったと思います。（今西）

プラザ全館で防災訓練を実施しました ～ 消防車の見学も ～



11月18日（火）にふれあいプラザあかし西全館で防災訓練を行いました。訓練に先立って、明石消防局二見分署の方々のご厚意で14時から消防車の見学をさせていただきました。

降園時間にバスロータリーに向かうと消防車がバスの近くに停まっており、驚くお子様もいましたが、消防車を間近で見ることができ、嬉しそうな表情をされるお子さまもいました。普段街中で見かけたり、すれ違ったりする消防車を間近で見ることができ、良い思い出になるといいなと思いました。

14時30分からは地震訓練、火災訓練、消火訓練をプラザ全館の職員や来園者の方々と一緒に行ないました。緊急時に備えて、設備の確認等、日頃からの備えがとても大切だと感じました。（池崎）



今年度から『療育見学会』を始めました ～ 地域連携を目指して ～

11月の2日間、それぞれ3、4名の明石市内の保育士の先生が来られて、登園から降園までの間、園内の様子を見学されました。皆さん、メモを取ったりしながらとても熱心に園内の環境や、職員が支援を行っている姿を見てくださり、たくさん質問もされました。また、見学後のお話し合いの場面やアンケートでは、絵カードの使い方やパーテーションでの工夫、職員の対応の仕方など、気づいたことを保育園に持って帰って取り入れたいとおっしゃっていただきました。

近年は夫婦共働きのご家庭が多くなり、療育施設へのニーズも多様化して、より保育園との連携が必要になってきました。参加された先生方から心強いお言葉もいただけて、園としても力をもらえたと思っています。これからもいっそうあおぞら園のことを知っていただき、市内の保育園の方たちとも協力し合う関係を作っていきたいと感じました。（副施設長・吉川）